

東武グループ中期経営計画 (2014～2016)

経営理念、経営方針のもと、中長期にわたり経営基盤を強化し、さらなる企業価値向上を図るため、以下の4つの基本戦略による「東武グループ中期経営計画」を策定しています。

●基本戦略

(1) 鉄道事業の利便性・安全性の向上

今後想定される人口減少社会や社会構造の変化等に対応し、安全輸送とお客さまのニーズに合った質の高い輸送サービスを提供することで、鉄道需要を拡大します。

- 東武アーバンパークラインの利便性・快適性の向上
- 質の高い輸送サービスの提供
- 安全性の向上

(2) 東京スカイツリータウン®の継続的な収益力強化

東京スカイツリータウン®は観光立国日本のシンボルとして「にぎわい」と「活力」を継続すべく、安定した顧客づくりと新たなマーケット開拓による来場者の維持拡大に向け、積極的な販売促進施策を展開します。

- 東京スカイツリータウン来場者の維持拡大
- 地域との連携によるエリア全体の活性化
- 東武グループ各社による収益拡大

(3) 沿線の生活価値の向上

沿線居住者やお客さまに対して、地域資源を活かしつつ、鉄道事業と各事業との相乗効果を発揮した魅力あるサービスを提供することで沿線の価値向上を図ります。また、各事業においては、少子高齢化など経営環境の変化に対応し、利益を確実に創出し続ける効率的で強固な経営基盤を構築するとともに、グループ各社・各事業の自主自立経営や競争力の強化によりグループ全体の収益性向上をめざします。

- 沿線拠点の強化
- 駅直結・駅スペースを活用した商業施設の魅力向上
- 定住化促進と生活支援事業の展開

(4) 観光戦略の展開

世界遺産の日光や、世界中から注目を集める東京スカイツリータウン®などの観光資源を活かして、国内のみならず、世界に目を向けた誘客施策を展開します。また、地域の観光資源の活用や新たな観光資源の発掘など、沿線の自治体とも連携しながら交流人口の増加につなげます。

- 訪日外国人観光客向けサービスの拡充
- 日光・鬼怒川地区等沿線観光地の活力創出

2013(平成25)年度の 連結経営成績

営業利益 560億円	当期純利益 315億円
売上高 営業利益率 9.4%	有利子負債/ EBITDA倍率 7.1倍

●4つの基本戦略
の実践

2016(平成28)年度の 連結目標経営指標

営業利益 650億円	当期純利益 320億円
売上高 営業利益率 10%以上	有利子負債/ EBITDA倍率 7倍程度